

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3206610号
(U3206610)

(45) 発行日 平成28年9月23日 (2016. 9. 23)

(24) 登録日 平成28年8月31日 (2016. 8. 31)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 5/54 (2006. 01)

B 6 5 D 5/54 A

B 6 5 D 5/44 (2006. 01)

B 6 5 D 5/44 N

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2016-3401 (U2016-3401)
(22) 出願日 平成28年7月14日 (2016. 7. 14)(73) 実用新案権者 510266871
林世峯
台湾台北縣三峽鎮正義街 7 9 號
(74) 代理人 100092772
弁理士 阪本 清孝
(72) 考案者 林世峯
台湾台北縣三峽鎮正義街 7 9 號

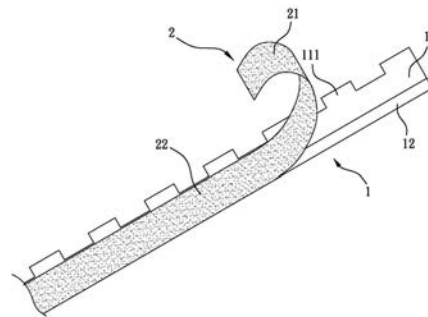
(54) 【考案の名称】紙製包装体を複数回繰返し再使用する包装及び開封装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】紙製包装体を複数回繰返し再使用する包装及び開封装置を提供する。

【解決手段】長細形状の離形基材 1 の長辺に沿って開け口分離線が形成され、且つ離形基材 1 の一側面に両面テープ層 2 が粘着される。更に、離形基材 1 の両面テープ層 2 を包装体のメイン蓋板における包装面上に粘着させることにより、包装体のメイン蓋板が粘着包装可能になる。開封時には、メイン蓋板の開け口つまみ部 12 を裂き開ければ、包装体を開封することが出来る。また包装体を再使用する時には、他辺のメイン蓋板を使用して再び包装をすることで、複数回繰返しして包装体を再使用することが出来る。

【選択図】図 2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

離形基材と、両面テープ層とからなる、紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置であって、

前記離形基材は、延伸して連続的な細長形状をなすとともに、前記離形基材の長辺に沿って開け口分離線が形成され、

且つ前記開け口分離線によって、前記離形基材は、基部と開け口つまみ部の二つのエリアに分割され、

前記両面テープ層の相対する両側面には、それぞれ粘着性を備えた第一粘着部及び第二粘着部が設けられ、

前記第一粘着部は、前記離形基材の一側面に粘着され、

前記第二粘着部は、包装体のメイン蓋板における包装面上に粘着されるために用いられ、更に、前記包装体の包装時には、予め前記離形基材の基部が裂き取られることを特徴とする、紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置。

【請求項 2】

更に、前記基部の長さ方向の側辺には、前記基部の幅方向に突出した複数個の凸部が形成されることを特徴とする、請求項 1 に記載の紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置。

【請求項 3】

更に、前記基部の幅は、前記開け口つまみ部の幅よりも大きいことを特徴とする、請求項 2 に記載の紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置。

【請求項 4】

更に、前記両面テープの第一粘着部は、前記基部の一部分及び前記開け口つまみ部の全てに覆い被せられるとともに、

前記両面テープの第一粘着部は、前記凸部には覆い被せられないことを特徴とする、請求項 3 に記載の紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置。

【請求項 5】

更に、前記包装体メイン蓋板の二側端における面上には、前記開け口つまみ部両側と平行し且つ適切な長さを備えた切り分けスリットが設けられることを特徴とする、請求項 1 に記載の紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、紙製の包装体を複数回繰り返し再使用するための包装装置に関し、特に、包装箱・ケース・袋等の包装体を繰り返し再使用可能にする、包装及び開封装置に関する。

【背景技術】

【0002】

インターネット技術の発展に伴い、電子商取引の成長も活発さを増している。電子商取引の業者は、品物を運送業者に配送委託する前に、包装箱でしっかりと包装する必要がある。包装時には一般的に、品物を包装箱・ケース・袋…等（以下では包装体と総称する）に入れてから、包装体の蓋板を被せた後、テープを貼って封をする。その他の郵送業務も、ほぼこれと同様である。

【0003】

消費者が荷物を受け取って開封しようとする時には、テープを剥がすか、或はカッターなどでテープを切り開ける必要がある。しかし、テープを剥がしたり切り開けたりする場合には、いずれも包装箱がある程度破損してしまうため、包装体を回収して繰り返し使用することは出来なくなる。特に、消費者が返品可能な猶予期間内において、買わない方が良かったと思い直して返品しようをする時に面倒である。このように、破損した包装体が使用不能になって直ぐに捨てられることは資源の無駄である上に、大量の樹木を伐採して包装体を製造することは環境保護に反している。

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

本考案は、包装体に結合されて、包装・開封後の包装体を新たに再包装・再開封可能にすることで、繰り返し再使用出来るようにする、包装及び開封装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案の特徴は、長細形状の離形基材の長辺に沿って開け口分離線が形成され、且つ前記離形基材の一側面に両面テープ層が粘着されることである。更に、離形基材の両面テープ層を包装体のメイン蓋板における包装面上に粘着させることにより、包装体のメイン蓋板が粘着包装可能になる。開封時には、メイン蓋板の開け口つまみ部を裂き開ければ、包装体を開封することが出来る。また包装体を再使用する時には、他辺のメイン蓋板を使用して再び包装をすることで、繰り返し包装体を再使用することが出来る。以上により、包装体を複数回使用可能になるという効果が得られる。

【0006】

また本考案が提供する、紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置は、離形基材と、両面テープ層とからなる。前記離形基材には、前記離形基材の長辺に沿って開け口分離線が形成され、前記開け口分離線によって、前記離形基材は基部と開け口つまみ部の二つのエリアに分割される。前記両面テープ層は、相対する両側面にそれぞれ粘着性を備えた第一粘着部及び第二粘着部が設けられる。前記第一粘着部は、前記離形基材の一側面に粘着され、前記第二粘着部は、包装体のメイン蓋板における包装面上に粘着される。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本考案の離形基材の構造を示した平面図である。

【図2】本考案の図1の離形基材上に両面テープを粘着させた実施例の斜視図である。

【図3】本考案の二本の離形基材を包装箱の第一及び第二メイン蓋板に粘着させた実施例の概略図である。

【図4】図3の第一メイン蓋板を被せ、且つ第二メイン蓋板上の離形基材を裂き開けた実施例の斜視図である。

【図5】図4の第二メイン蓋板上の離形基材を完全に裂き開けた実施例の斜視図である。

【図6】図5の第二メイン蓋板を被せて包装した後、再び第二メイン蓋板を開け口つまみ部に沿って裂き開けた実施例の斜視図である。

【図7】図6の第二メイン蓋板を開け口つまみ部に沿って完全に裂き開けた実施例の斜視図である。

【図8】図7の包装箱における各蓋板を開いた実施例の斜視図である。

【図9】図8の包装箱を新たに包装する時、まず第一・二サブ蓋板を被せた実施例の斜視図である。

【図10】図9の第二メイン蓋板を被せ、且つ第一メイン蓋板の離形基材を裂き開けた実施例の斜視図である。

【図11】図10の離形基材を完全に裂き開けた後の実施例の斜視図である。

【図12】図11の第一メイン蓋板を被せて包装した後の実施例の斜視図である。

【図13】本考案の包装及び開封装置を書類配送袋に応用した実施例の斜視図である。

【図14】図13の離形基材を裂き開けた実施例の斜視図である。

【図15】図14の離形基材を完全に裂き開けた後の実施例の斜視図である。

【図16】図15の書類配送袋の蓋部を被せて包装した後の斜視図である。

【図17】図16の蓋部を開け口つまみ部に沿って裂き開けた実施例の斜視図である。

【図18】図17の蓋部を開け口つまみ部に沿って完全に裂き開けた後の実施例の斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 19】図 16 の蓋部を完全に裂き開けて開いた後の状態を示した概略図である。

【考案を実施するための形態】

【0008】

(実施例 1)

図 1 を参照する。本考案が提供する、紙製包装体を複数回繰り返し再使用する包装及び開封装置の実施例は、離形基材 1 と、両面テープ層 2 とからなる。このうち、離形基材 1 は、膠着剤に粘着しにくい適切な材料からなるとともに、延伸して連続的な長細形状をなし、且つ巻かれて一纏めにされることで保存・運搬・加工がし易くなる。更に離形基材 1 は、長辺に沿って開け口分離線 13 が形成されるとともに、開け口分離線 13 によって離形基材 1 は基部 11 と開け口つまみ部 12 の二つのエリアに分割され、且つ開け口分離線 13 が裂き開けられることで基部 11 と開け口つまみ部 12 は分離される。更にこのうち、基部 11 の長さ方向の側辺には、基部 11 の幅方向に突出した複数の凸部 111 が連続して設けられる。凸部 111 は、多種の異なる形状をなすことが可能であり、且つ凸部 111 は等間隔で分布することが可能である。基部 11 の幅は、開け口つまみ部 12 の幅よりも大きい。

【0009】

図 2 を参照する。前述した両面テープ層 2 の相対する両側面には、それぞれ粘着性を備えた第一粘着部 21 及び第二粘着部 22 が設けられる。第一粘着部 21 は、離形基材 1 の一側面に粘着され、第二粘着部 22 は、包装箱 3 のメイン蓋板 3A・3B 包装面上に粘着されるために用いられる。本考案の実施例において、両面テープ層 2 の第一粘着部 21 は、基部 11 の大部分と開け口つまみ部 12 の全てに覆い被せられると同時に、両面テープ層 2 の第一粘着部 21 は凸部 111 には覆い被せられない。

【0010】

(実施例 2)

図 3 を参照する。図は、本考案の二本の離形基材 1 を実際に包装箱 3 に応用した様子を示している。このうち、包装箱 3 は、箱体の上端開口における相対する両側に接続された第一メイン蓋板 3A 及び第二メイン蓋板 3B と、箱体の上端開口におけるもう一つの相対する両側に接続された第一サブ蓋板 3C 及び第二サブ蓋板 3D とからなる。本考案は、離形基材 1 上の第二粘着部 22 をそれぞれ第一メイン蓋板 3A 及び第二メイン蓋板 3B の包装面上に粘着させる。また、包装箱体 3 の第一メイン蓋板 3A 及び第二メイン蓋板 3B の二側端における面上には、開け口つまみ部 12 両側と平行し且つ適切な長さを備えた切り分けスリット 31 が設けられる。

【0011】

包装箱 3 を包装する時には、まず第一サブ蓋板 3C 及び第二サブ蓋板 3D を箱体に被せてから、第一メイン蓋板 3A を第一・二サブ蓋板 3C・3D 上面に被せる。更に、第二メイン蓋板 3B 上の基部 11 を裂き開けて、第一粘着部 21 を露出させる（図 4 及び図 5 参照）。この後、第二メイン蓋板 3B を第一メイン蓋板 3A 上面に被せると同時に、第一粘着部 21 を第一メイン蓋板 3A 上面に貼着することで包装が完了する。前述した凸部 111 には両面テープ層 2 が粘着していないため、使用者は凸部 111 の箇所からスムーズに離形基材 1 の基部 11 を裂き取ることが出来る。

【0012】

図 6 を参照する。包装箱 3 を開封する時、使用者は、第二メイン蓋板 3B の一側端から、二つの切り分けスリット 31 の間における開け口つまみ部 12 をつまみ起こすとともに、開け口つまみ部 12 を離形基材 1 の長さ方向に沿って裂き開け、これにより第二メイン蓋板 3B が壊される。更に、開け口つまみ部 12 全体が接続された第二メイン蓋板 3B から完全に離れるまで裂き開けることで（図 7 参照）、開け口溝部 30 が形成されて、包装箱 3 を開封することが出来る。

【0013】

図 7 に示した第二メイン蓋板 3B は再粘着することが出来ないため、包装箱 3 を再使用して物品を包装する時には、まず図 8 に示したように、包装箱 3 の各蓋板を開いて物品を

入れた後、第一サブ蓋板 3 C 及び第二サブ蓋板 3 D を被せる（図 9 参照）。この後、第二サブ蓋板 3 B を第一・二サブ蓋板 3 C ・ 3 D 上面に被せるとともに、第一メイン蓋板 3 A 上の離形基材 1 基部 1 1 を裂き取って第一粘着部 2 1 を露出させる（図 1 0 及び図 1 1 参照）。この後、再び第一メイン蓋板 3 A を第二メイン蓋板 3 B の上面に被せると同時に、第一粘着部 2 1 を第二メイン蓋板 3 B 上面に貼着する（図 1 2 参照）ことで、包装が完了する。同様に、包装された包装箱 3 を開封する時にも前述した方法で、第一メイン蓋板 3 A の一側端から二つの切り分けスリット 3 1 の間の開け口つまみ部 1 2 をつまみ起こして、離形基材 1 の長さ方向に沿って第一メイン蓋板 3 A を裂き開ける。更に、開け口つまみ部 1 2 全体を完全に裂き開ければ、包装箱 3 を開封することが出来る。

【 0 0 1 4 】

10

前述の説明では、離形基材 1 を包装箱 3 上方の第一・第二メイン蓋板 3 A ・ 3 B 包装面上に粘着させた。しかし、包装箱 3 底部にも、同等の第一・第二メイン蓋板、及び同等の第一・第二サブ蓋板が設けられているため、離形基材 1 を包装箱 3 下方におけるもう一つの第一・第二メイン蓋板に粘着させることも可能であり（図示せず）、これにより一つの包装箱 3 の上方と下方のメイン蓋板上における計四つの包装面に、離形基材 1 が粘着されることで、包装箱は少なくとも四回繰り返し再使用することが可能になる。

【 0 0 1 5 】

（実施例 3）

図 1 3 は、本考案の包装及び開封装置を書類配送袋に応用した実施例の斜視図である。このうち、書類配送袋 4 は、袋体 4 1 と、袋口 4 1 0 の位置に接続された蓋部 4 2 とからなる。蓋部 4 2 の包装面上には、本考案の離形基材 1 が粘着されて設けられるとともに、蓋部 4 2 二側の面上には、開け口つまみ部 1 2 両側と平行し且つ適切な長さを備えた切り分けスリット 4 2 1 が設けられる。

20

【 0 0 1 6 】

図 1 4 と図 1 5 を参照する。包装をする時、まず離形基材 1 の基部 1 1 を裂き取って第一粘着部 2 1 を露出させる。この後、蓋部 4 2 を折り返して、第一粘着部 2 1 を袋体 4 1 に貼着する（図 1 6 参照）。書類配送袋を開封する時には、前述の方法と同様に、蓋部 4 2 の一側端から二つの切り分けスリット 4 2 1 の間の開け口つまみ部 1 2 をつまみ起こすとともに、開け口つまみ部 1 2 を離形基材 1 に沿って裂き開ける（図 1 7 参照）。更に、開け口つまみ部 1 2 全体を接続された蓋部 4 2 から完全に裂き取れば（図 1 8 参照）、書類配送袋 4 を開封して袋口 4 1 0 を露出させることが出来る（図 1 9 参照）。

30

【符号の説明】

【 0 0 1 7 】

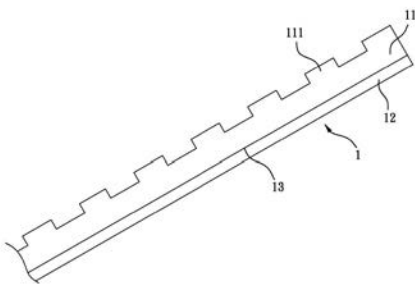
- 1 離形基材
- 1 1 基部
- 1 1 1 凸部
- 1 2 開け口つまみ部
- 1 3 開け口分離線
- 2 両面テープ
- 2 1 第一粘着部
- 2 2 第二粘着部
- 3 包装箱
- 3 0 開け口溝部
- 3 1 切り分けスリット
- 3 A 第一メイン蓋板
- 3 B 第二メイン蓋板
- 3 C 第一サブ蓋板
- 3 D 第二サブ蓋板
- 4 書類配送袋
- 4 1 袋体

40

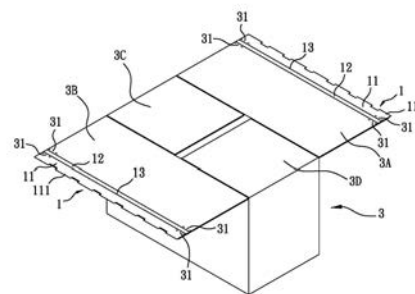
50

4 1 0 袋口
 4 2 蓋部
 4 2 1 切り分けスリット

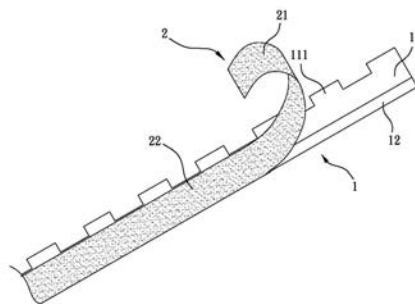
【図 1】



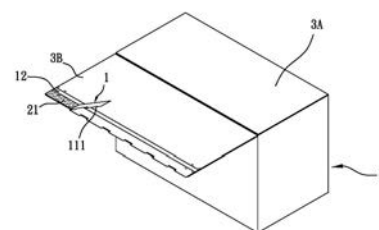
【図 3】



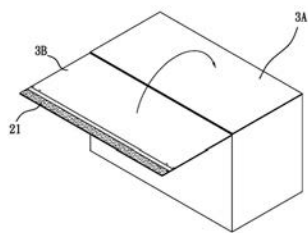
【図 2】



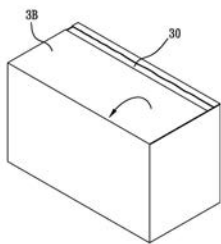
【図 4】



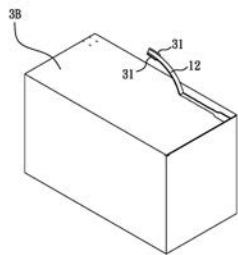
【図 5】



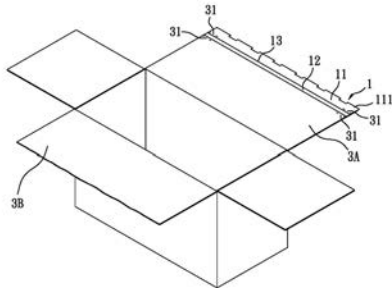
【図 7】



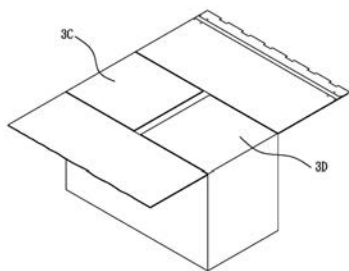
【図 6】



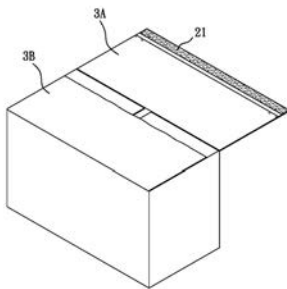
【図 8】



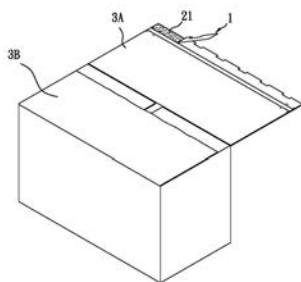
【図 9】



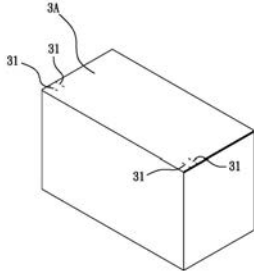
【図 1 1】



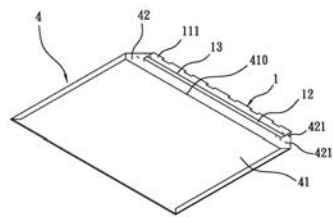
【図 1 0】



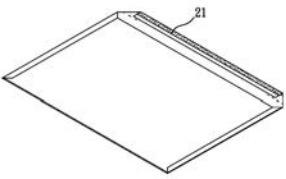
【図 1 2】



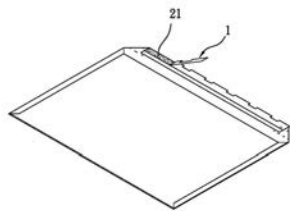
【図 1 3】



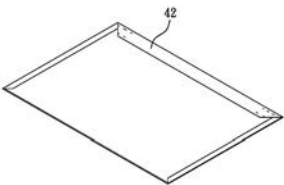
【図 1 5】



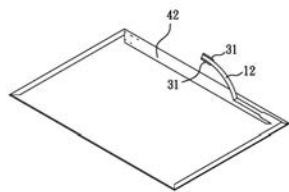
【図 1 4】



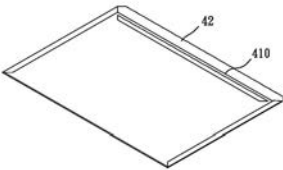
【図 1 6】



【図 1 7】



【図 1 9】



【図 1 8】

